

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

- 1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
- 3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

- 1. 「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) 新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。
 - ア 校内の『授業改善検討委員会』等による持続的な授業改善を推進する。
 - ※「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和8年度まで85%以上を維持する（R3 84%、R4 82%、R5 85%）。
 - ※ 生徒の授業アンケート結果で3.40以上を維持する（R3 1回め①3.37、2回め②3.38 R4 ①3.45、②3.47 R5 ①3.45、②3.51）
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※令和8年度までに90%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施する（R3 92%、R4 91%、R5 81%）
 - ※令和8年度までに90%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（R3 91%、R4 88%、R5 89%）
 - ※令和8年度まで70%以上の生徒が1人1台端末を効果的に活用している授業が多いことを実感できることを維持する（R4 63%、R5 73%）
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※「授業の予習、復習は『できている』『まずできている』を令和8年度に60%以上にする（R3 56%、R4 52%、R5 51%）
 - ※「授業の予習、復習は『できていない』を令和8年度に5%以下にする（R3 9%、R4 9%、R5 9%）
 - エ 新学習指導要領における新カリキュラムと観点別学習評価を、令和4・5年度での取組みを踏まえ、全学年で安定して実施できるようにする。
 - (2) ICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応
 - (1) ICT機能を活用して、学校休業時や、感染症の罹患者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、感染症の罹患者等の学習補完を充実する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の活用をすすめ、授業や学校行事等、教育活動全般においてICT活用推進を図る。
- 3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望進路の実現
 - (1) 様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員に対して、多様性を認めあい共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和8年度までに90%以上にする（R3 90%、R4 88%、R5 89%）
 - ※「牧野高校の人権教育は、適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和8年度までに90%以上にする（R3 90%、R4 84%、R5 80%）。
 - ※「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和8年度まで85%以上を維持する（R3 86%、R4 89%、R5 88%）。
 - (2) 生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割、使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、ポストコロナの社会にあったものに見直しをしていく。
 - ※体育祭や文化祭、修学旅行等について、ポストコロナの社会にあったものになるよう見直しや修正、変更を検討する。
 - ※「部活動は活発である」への生徒の「よくあてはまる」の回答を令和8年度までに70%以上にする（R3 66%、R4 68%、R5 65%）。
 - ※「部活動と学習の両立ができている」の生徒の肯定的回答を令和8年度には80%以上にすることをめざす（R3 77%、R4 74%、R5 74%）。
 - イ 生徒に、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※進路講演会やイベントを行うとともに、外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和8年度に85%以上にする（R3 85%、R4 78%、R5 80%）。
 - ※「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を令和8年度までに90%以上にする（R3 90%、R4 88%、R5 88%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を図る。
 - ※令和8年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R3 74%、R4 63%、R5 68%）にするとともに、そのうち5教科型（情報Ⅰは含まない）の出願者を35%以上（R3 29%、R4 25%、R5 31%）にすることをめざす。
 - ※令和8年度までに、国公立大学の現役受験者を卒業見込者の30%以上（R3 18%、R4 10%、R5 26%）にして、現役合格者を卒業見込者の10%以上（R3 7%、R4 6%、R5 12%）をめざす。
 - ※令和8年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業者数の15%以上にする（R3 15%、R4 14%、R5 15%）。
 - ※令和8年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込者の60%以上を維持する（R3 72%（225名/313名）、R4 65%（204/313名）、R5 66%（180名/271名））。
 - 4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分応えられる資質を養成する。
 - ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を令和8年度までに90%にする（R3 88%、R4 87%、R5 80%）。
 - ※「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答を令和8年度までに85%以上にする（R3 82%、R4 82%、R5 80%）。
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、直近5年で 78%⇒84%⇒82%⇒85%⇒78%となり、前年度より7ポイント減少し、4年ぶりに80%を下回った。このうち「よくあてはまる」の回答は19%⇒24%⇒25%⇒31%⇒30%と2年連続で30%以上となった。肯定的回答は80%を下回ったが、「よくあてはまる」がほぼ横ばいということとは、生徒個々の授業理解度に差がでてきているものと考えている。 ＜参考＞生徒の授業アンケート結果は、昨年度①3.45、②3.51、今年度①3.41、②3.46（非講含）と高評価を維持。「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答のポイントは下がったものの授業のわかりやすさは保たれていると考えている。 ・「ICT機器やネットワークを活用した授業を行っている」に肯定的回答をした教員は、直近5年で93%⇒92%⇒91%⇒81%⇒78%、このうち「よくあてはまる」の回答は43%⇒62%⇒60%⇒45%⇒48%であった。コロナ禍で一気にICT機器等の活用が進んだこともあり導入当時は高かったが、現在は、ICT機器等を使うことが当たり前になってきたことやオソドックスな授業も一定復活してきたことがこの数値結果の背景にあるのではないかと考えている。 ・一方「ICT機器やネットワークを活用した授業が多い」への生徒の肯定的回答は直近5年で91%⇒91%⇒88%⇒89%⇒82%となり、今年度は教員の回答結果と近い数値となった。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は直近5年で53%⇒56%⇒52%⇒51%⇒49%と前年度より少し下がったもののここ3年は横ばい。『できていない』と回答した生徒は8%⇒9%⇒9%⇒9%⇒9%と横ばい。引き続き働きかけを行っていく。 ・「授業だけで理解できない場合等の、指導が適切に行われている」への生徒の肯定的回答は直近5年で64%⇒72%⇒68%⇒75%⇒71%と前年度よりやや減少したものの一定水準を維持していると考ええる。 【生徒指導】 ・「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答は81%（1年生80%、2年生83%、3年生81%）で前年度（86%）より5ポイント減少、「よくあてはまる」の回答は56%（1年生56%、2年生60%、3年生52%）と前年度（54%）より2ポイント上昇した。2年生が高く、学校に慣れ、受験のプレッシャーもないことがその理由であるように思われる。 ・「体育祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は83%（1年生83%、2年生85%、3年生82%）、「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は81%（1年生80%、2年生81%、3年生82%）と、昨年度（体育祭91%、文化祭89%）よりどちらも8ポイント下がったが高評価を維持。学校行事が魅力という本校の特色を裏付ける結果となった。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は直近5年で84%⇒87%⇒87%⇒85%⇒80%であり、このうち「よくあてはまる」は32%⇒41%⇒41%⇒42%⇒43%となっている。 ・一方「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できている」への教員の肯定的回答は直近5年で77%⇒90%⇒91%⇒75%⇒76%と昨年並み。「いじめに関するアンケート」等をもとに引き続きしっかり取組をしていく。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答は直近5年で78%⇒82%⇒82%⇒80%⇒74%、このうち「よくあてはまる」は32%⇒37%⇒36%⇒41%⇒37%となっており、いずれも減少した。引き続き注視していく。 ・「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への教員の肯定的回答は直近5年で68%⇒90%⇒87%⇒80%⇒70%と2年にわたり大きな減少が続いている。コロナ禍があげ通常教育活動に戻ったことで、教員の意識にも変化が生じたのではないかと考えている。 【学校運営】 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は直近5年で80%⇒85%⇒78%⇒80%⇒70%、このうち「よくあてはまる」は31%⇒34%⇒27%⇒35%⇒25%であった。ポイントが大きく下がったのは、今年度より新課程の入試が始まったことと関係があるのではないかと考えている。「生徒の10年20年先を見据えた進路指導を行っている」の教員の肯定的回答は直近5年で42%⇒70%⇒58%⇒72%⇒54%で、年によって差があり、引き続き注視する。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は直近5年で89%⇒90%⇒88%⇒88%⇒82%、このうち「よくあてはまる」は41%⇒49%⇒43%⇒47%⇒44%であった。前者、後者とも下がったが、前者は8割超あり、後者も大幅な減少とまでは言えず、一定評価は得ているものと考えている。	【第1回】令和6年7月10日 ○令和5年度学校経営計画及び学校評価について、最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。 ⇒昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載し、自己評価については色分けするなどの工夫をして記載している。 ○令和6年度学校経営計画について、最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。 ⇒昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載している。昨年度のものをベースに作成しているが、一部数値目標や表記を変えているところがある。変更した箇所については、色分けするなどの工夫をして記載している。 ○カウンセリングマインドを取り入れた指導とはどういったものか ⇒例えば、遅刻指導をする際、頭ごなしに「遅刻はいけない」という指導をするのではなく、なぜ遅刻をしたのか生徒に聞くことをしている。家庭の事情なのか、体調不良なのか、遅刻をしてきた理由を聞くことで生徒の背景が見えてくる。その背景に応じた指導をしていくということである。 ○生徒たちの進路決定は、主体的（自主的）に決定されているのか。 ⇒進路指導部・担任を中心に、生徒1人ひとりが自分の希望を考えて進路を決定できるようにサポートを行っている。 ○中学校におけるキャリア教育はどんな感じか。 ○生徒の学力等にかかなり幅があるので、個々の生徒にあったきめ細かい対応が必要になるが、1年生のころからどのように生きるのかということについて考え、段階的に進路を決定していくようにしている。コロナ禍があげ、2年生では、企業と連携して職場体験学習などを行ったりしている。 ○浪人はどれくらいいるのか。 ⇒例年10人前後しかいない。現役志向の強い学校である。多くの生徒は、何が何でもこの大学というよりは、自分の学力にあった大学に進学している。 ○各大学同じような学部を設けているので、特に大学にこだわらずに進学することもできると思うが、生徒はどのように考えているのか。 ⇒公募制入試で滑り止めを確保した上で、一般入試で第一志望を受験する生徒が多い。また文系では、一人の生徒が受験する学部も多岐にわたっていることが多い。理系の場合は、学びたいことが決まっていることが多いので、そのようなことは少ない。 ○今年入学してきた生徒の特徴を教えてください。 ⇒非常に元気があり、部活動にも積極的に参加している。上級生に迫るような技術や積極的な気持ちを持つ生徒も多い。 ○部活動は活発に活動しているが、指導できる先生は、継続的にいるのか。競技によっては、他校との連携など、工夫されていると思うが、どういう状況か、教えてください。 ⇒柔道部は、部員が少ないので、合同で他の学校と一緒に活動している。指導者については、専門の先生がいるクラブもあれば、そうでないクラブもあるので、専門の指導者がいない部活動では、外部の方を部活動指導員という非常勤職員に雇用して、技術指導や大会の引率をしてもらっている。 ○ICT機器の活用については、どのような方策が行われているか、教えてください。 ⇒教員間で、成功事例を共有しながら、活用する範囲を拡充していつている。総合的な探究の時間では、1人1台端末を活用した調べ学習を行い、生徒たちの発表の質が向上している。 ○デジタル採点の活用状況を教えてください。 ⇒デジタル採点を、一度やってみると、とても素晴らしいと教員間で好評である。時間も削減され、生徒の解答を横並びで確認できるので、採点基準もしっかりと決めることができている。多くの教員が活用できるようになってきた。 ○月の残業時間が多いようなので、働き方改革をより一層すすめていただきたい。 ⇒部活動に熱心な先生が、時間外勤務が多くなっている。ただ本人は、そのことを苦にしていないこともあり、ワークライフバランスの観点での難しさを感じている。 ○大学のオープンキャンパスとか行くように生徒にすすめていたりしているのか。 ⇒2年生では夏休みの宿題で2つの大学のオープンキャンパスに行くように言っている。行く大学は生徒が決めている。3年生は、多くの大学に学校に来てもらっての説明会を実施し、生徒は自分の興味ある大学の説明会に参加している。ただ、先輩が行った大学に進学したがる生徒も多いので、進学先の傾向は例年同じようになりがちである。 ○国公立大学への進学は近畿圏が多いのか。 ⇒その通り。保護者の意向もあり、地方に行く生徒は少ないので、地方の国公立大学も魅力がたくさんあることをアピールしている。 ○学校教育自己診断の指標がほぼ上限までできているように感じる。例えば、ICTの活用については、ほぼ達成できているので、すべての学校で同じ質問になっていると思うが、これからは、単に「ICT機器を活用しているか」といった指標ではなく、「ICT機器を使ってどのような力が身についたか」といった内容を問う視点をもつようなことを考えてもらいたい。 【第2回】令和6年12月9日 ○学校経営計画の進捗状況について説明をいただきたい。 ⇒年度途中であり、評価指標となる数値が確定していない項目が多いので、現在までに取り組んだ内容について報告する。学校教育自己診断は12月下旬に実施する予定にしており、第3回学校運営協議会では、報告できる予定である。 ○第1回授業アンケートの結果について説明をいただきたい。 ⇒生徒たちが全教科の担当教員について、質問項目それぞれにつき4点を満点として回答

府立牧野高等学校

・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は直近５年で75%⇒82%⇒81%⇒84%⇒77%、このうち「よくあてはまる」は25%⇒33%⇒34%⇒38%⇒33%であった。前者は８割前後で推移、後者も昨年を除きここ４年は同水準でこちらも一定評価は得ているものと考えている。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は直近５年で93%⇒94%⇒92%⇒91%⇒85%、このうち「よくあてはまる」は63%⇒66%⇒68%⇒65%⇒66%であった。前者は下がったものの高水準を維持している。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は直近５年で73%⇒77%⇒74%⇒74%⇒69%、このうち「よくあてはまる」は29%⇒33%⇒33%⇒32%⇒33%であった。前者は下がったものの後者は横ばい。同じ設問の保護者の肯定的回答は直近５年で64%⇒69%⇒70%⇒71%⇒67%、このうち「よくあてはまる」は22%⇒25%⇒25%⇒30%⇒28%であった。どちらもほぼ横ばいとなっており、生徒や保護者が両立に困難を感じないように、効率的な運営に努める。 ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は直近５年で87%⇒90%⇒88%⇒89%⇒82%、このうち「よくあてはまる」は37%⇒46%⇒47%⇒51%⇒46%で、引き続き注力していく。 ・「牧野高校は人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は直近５年で86%⇒86%⇒89%⇒88%⇒86%、このうち「よくあてはまる」は23%⇒25%⇒24%⇒25%⇒25%で、ほぼ横ばいである。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は直近５年で81%⇒90%⇒84%⇒80%⇒74%、このうち「よくあてはまる」は23%⇒34%⇒42%⇒32%⇒24%で、前年度より減少した。 ・「教職員間の十分な相互理解に基づいて教育活動が行われている」への教員の肯定的回答は直近５年で65%⇒78%⇒73%⇒71%⇒69%、このうち「よくあてはまる」は13%⇒20%⇒22%⇒14%⇒19%であった。 ・「教育活動全般について生徒や保護者の期待によく応えている」への教員の肯定的回答は直近５年で77%⇒92%⇒89%⇒77%⇒75%、このうち「よくあてはまる」は19%⇒32%⇒33%⇒25%⇒29%であった。 ・「牧野高校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」への教員の肯定的回答は導入以来７年たち69%⇒67%⇒74%⇒88%⇒87%⇒80%⇒76%、このうち「よくあてはまる」は16%⇒16%⇒35%⇒38%⇒44%⇒30%⇒24%で年によって差があるものの導入時よりポイントは高くなっており、一定定着してきている。	したもの。今年度、非常勤講師除き、第１回は3.43と昨年度第２回の3.51から下がった。昨年度第１回は3.45であったので、高止まりしたのではないかと考えている。各年代の差も教科別の差も昨年度より大きくなっている。８～９割の先生が電子黒板を使って視覚に訴える授業をされており、授業アンケートは全体的には高評価で安定しているが、中には残念ながら思うような数値が得られていない先生もおられる。そうした先生方に対して、助言を行うなどして全体のボトムアップに努めたいと思っている。 ○教員の超過勤務について説明をいただきたい。 ⇒２学期より、教員一人当たりの超過勤務時間が昨年度と比べて増えた。主な要因として考えられるのは、体育祭と文化祭の準備、学校説明会の運営に参加する生徒の指導で放課後や休日での活動が多くなったこと、部活動指導があげられる。働き方改革の取り組みとしては、今年度ペーパーレス会議の導入と部活動指導員および運動部や文化部での部活動外部指導者の活用を推進している。ペーパーレス会議の実施については、職員会議を含む諸会議においてはペーパーレス会議に移行し、会議資料の作成や配付、会議時間の削減に大いに繋がった。「部活動指導員」及び「部活動外部指導者」については、「部活動指導員」は、昨年度から継続しているバトミントン部１名だけでなく、新たにソフトテニス部、女子硬式テニス部にも各１名採用して、３名となった。また、「部活動外部指導者」は、昨年度から継続している男子サッカー部２名、女子バスケットボール部２名、茶華道部１名だけでなく、新たに水泳部１名と男子硬式テニス部１名を採用して、７名となった。ちなみに「部活動指導員」は学校の教職員と同様に単独で付添いを行うことができ、対外試合や公式戦にも引率可能、「部活動外部指導者」は、教職員なしでの付添や引率はできないことになっている。次年度も一定数の部活動で希望があるので採用する予定。面談の対象となる教員は昨年度と比較すると、11月末現在で、80時間以上、100時間以上とも前年度より増加。教育の質を維持しながら、引き続き業務の均等化を図り、様々な制度を活用しながら、時間外勤務減少の意識の醸成に努めていきたいと考えている。 ○今年、国公立大の志望者数が昨年より下回った理由として、外部要因によるところが大きいという説明だったが、今年から入試のルールが変わったということは、目標値の見直しが必要になるかと思う。また、進学先を早く決めたいという説明だったが、自分の行きたい大学よりも安心して早く自分の進路を決めたいという思いは強いものなのか。 ⇒今の高校生は、その傾向は強いと感じている。本校だけでなく、他校の校長からもこのような話は聞いている。本校では、ある生徒について、本人は国公立大学に行きたいという希望を持っているが、保護者が先に早く決めてほしいという思いが強く、その意向もあって生徒本人が志望校を変えたという話もある。３年の進路担当の教員が国公立大学への進学を一生懸命指導しても、年度途中、１学期ぐらいで志望校を変えてくる生徒が一定数いる傾向がある。今の時代を現わしているようにも思う。 ○キャリア教育は、高校だけで成り立つのではなく、小中も含めて行うものだが、生徒自らが自己判断・自己決定して、行動に移すという一番重要なところと、親の思いの影響などの外発的な要因の双方があると思う。高校生がきちんと自分の夢を語って、それを実現するために時間がかかろうが、たくさんの科目を学ばなければいけなくなろうが、しっかり取り組んでいくという姿勢は見られているか。それとも、外発的な要因で早く進路を決めるようになっているのか、実際に進路指導を担当されている先生方のご意見を伺いたいと思う。 ⇒この大学に行って、こういう研究したいというふうに考えている生徒に関しては、志望校は変わらずに頑張ってくれていると思う。しかし、２年生時点で大学調べをしたり、受験が近づいたりしていくにつれて、早く決めたいと考えるような傾向が大きくなっている。特に周りの生徒の進路が決まっていく中で、自分がまだ決まってないというのを嫌う傾向にあると感じている。 ○授業アンケートの結果で、令和５年度第２回が高かったのは、昨年はコロナがあげ、ディスカッションとかワークショップ等ができるようになり、それが良かったというような説明だったが、今年度第１回は昨年度第２回に比べて下がっている。その中で、教科別平均で見ると、国語の下がり方や、情報が長期に渡って下がり気味になっている。これは教員の個人的要因などの影響か。 ⇒教員の異動はあまりないが、評価する生徒は毎年変わっていくので、生徒が「自分に合わない」と考える教員の評価は下がる傾向にある。情報は、大学入学共通テストの科目になったので、これまでと異なり、受験科目として座学が多くなり実技の時間が減っている。そのため、生徒が「楽しい」と感じるものが少なくなった結果ではないかと考えている。 ○ＩＣＴ活用についてだが、牧野高校の場合は、教科ごとの活用の比率が高まるというような考えではなく、質的にどのような分野の、例えば、思考力や判断力、表現力など、どこが伸びているのかを検証していかなければいけないと考えている。学校長からも説明があったように、評価指標が高止まりしている状況であると思うので、電子黒板を利用するのが目的ではなく、タブレット端末や電子黒板を利用して、子どもたちのどの能力が高まっているのかということを検証していき、その高まる部分をうまく各教科の特性を生かして重点的に活用していくという方向にシフトした方がいいのかなと思う。先生方に対しても「活用段階のフェーズはもう終わったよ」というようなメッセージを発信していくようなことを考えられているのか。 ⇒現時点では、生徒たちのタブレット端末の活用については、総合的な探究の時間での調べ学習や、発表の準備などで使っている。そこから発展させて、何かもう一つ上の活用法を考えることはできていない。生徒の学力定着のため、各生徒の学力に応じて出題傾向を変えることができるような学習アプリの活用などはこの１年ですすんできている。 ○今年も文化祭で、私の所属する障がい福祉サービス事業所の利用者さんによるパンの販売を行った。その時に学校を訪れると生徒さんたちが、熱心に活動・準備されていた。そのサポートをする先生方も勤務時間を超過して働いておられると思うので、先生たちの熱意と時間外勤務の兼ね合いに対する対応として、遅番・早番のような対応はしているか。
---	--

府立牧野高等学校

⇒そういう対応はしている。例えば、土日に文化祭の準備がしたいというクラスがあれば、その学年の先生が当番を組んで対応している。ただし、平日はどうしても担任が指導することが多いので遅くまで勤務することになる。本校は、行事や部活動の盛んな学校と地域からも中学生からも評価されているので、行事の時などは時間外勤務が多くなる傾向がある。学校の特色づくりと働き方改革のバランスをとるのが難しいと感じている。

○授業アンケートの時に他の先生の授業を見学に行くという説明があったが、何か研修はしているのか。

⇒令和元・２年度に府教育センターが行っている授業力向上に向けたパッケージ研修を受講したが、その後は組織だった教員研修は実施していない。ただ、管理職が授業見学後にアドバイスをするなどの対応はしている。

○本校生でスマホを見ながら自転車を運転するといったマナーの良くない生徒はほぼ見ない。生徒のモラルが高いことは非常に素晴らしい。勉強だけではなく非認知能力の高い生徒も多い。その面も育んでいってほしい。

【第３回】令和７年２月１２日

○今年度は全体的に学校教育自己診断の肯定的回答の数値が下がったとのことだが、その要因として何か本質的な課題みたいなものがあるのか。次年度の目標設定とも関係してくると思うが、その課題がわかれば何をすべきかが見えてくるように思うが、いかがか。

⇒新しい学習指導要領になり、新たな科目が出てきた。社会科では世界史と日本史を融合した歴史総合といった科目、理科については物理基礎、化学基礎といった基礎科目と物理、化学といった従来からある科目に分かれた。また情報という科目も新しく入ってきて、大学入学共通テストがこれまでと大きく変わった。数値が下がった要因は、どのような問題が出題されるかよくわからない中で生徒の不安が強かったことがあるのではないかと考えている。教育産業も予想問題などを発表しているが、やはり実際の問題を見ないと出題傾向はわからないこともあり、生徒は不安感が強くなったのではないか。これを課題と考えるのであれば、先月、大学入学共通テストがあったが、あと２・３年しないと出題傾向ははっきり見えてこないのも、生徒が不安を感じなくなるまで、あと２・３年かかるのではないかと考えている。

○内部要因より外的な要因により不安感が増しているということか。

⇒その通り。

○「牧野高校の授業はわかりやすい」の肯定的回答は下がっているが、「非常にそう思う」の項目は増えている。これは授業の理解度の二極化が進んでいるということかと思うので、やはり何らかの対策はしていく必要があると思う。

⇒学期の終わりごとに成績会議があり、そこでの報告を聞くと、各学年とも、勉強のできる生徒とできない生徒の差が結構あるように思う。勉強に意欲的な生徒は自ら先生に質問に行ったりしているが、そうでない生徒もおり、課題を出したり放課後の質問会等により全体のボトムアップをしていく必要があるように思う。

○学習活動、行事、部活動等多岐にわたり先生方は教育活動に関わっておられるが、かなり負担も増えているのではないかと思う。データベース化やペーパーレス化による会議時間の縮小、部活動時間の圧縮、校内行事の見直し等工夫されているが、実際に月の残業時間が８０時間、１００時間を超える教職員はどれくらいいるのか。

⇒資料７を見ると、８０時間超、１００時間超の教職員はそれぞれ３５人、２０人と書いているが、これは延べ人数であり、実際は５～６人の先生である。これらの先生方が毎月の時間外が多くなっている。一方、時間外勤務が多くない先生方も一定数おられる。

○教職員のウェルビーイングというか疲弊しないようなサポートは何かされているのか。

⇒部活動については部活動指導員という外部の方を非常勤職員として雇用し部活動指導や大会引率をしていただいている。今年度硬式テニス部に１人、新たに来ていただいた。ただ、各学校で取り合いとなっており、予算のこともあり希望通り配置されない面がある。

○「牧野高校は悩みを相談できる人や部屋がある」という数値が下がっているのが気になる。要望であるが、数値目標も大事だが、具体的にどういうことをされているのか、検討いただいて数値をあげていただきたいと思う。

○経年的にポイント进行比较していく中で、学校教育自己診断について統計的な検定はされているのか。ポイントが上がった、下がったということで一喜一憂するのではなく、検定をして、有意差があるかどうか確認するということ。８２％と７８％なら有意差はほとんどなく誤差の範囲であると捉えることができる。差が７ポイント、８ポイント、１０ポイントに近い数字が出てくると、集団が質的に少し変わってきているという判定ができる。おそらく表計算ソフトを使っておられると思うので数学に詳しい方なら簡単に検定できる。パッケージに数値を入れるとすぐに検定結果が出る。そうすると、ポイントに捉われるよりもっと大きなところが見えてくるのかなと思う。

授業の満足度や理解度のところで、学力は正規分布になるという仮説を立て、それに平均点を合わせると数学的には６８％の児童・生徒を対象とした授業ができる。しかし、令和６年度の全国学力・学習状況調査を見ると、正規分布どころか、ふたコブでもなく、多極化している、いわゆるギザギザのグラフになる。それに平均点を合わせると、２５％から３０％の児童・生徒しかカバーできないことが明らかになった。一斉学習、一斉授業は、かつての正規分布なら、１クラス５０人なら５０人、４０人なら４０人が正規分布すると考えるから、平均に合わせた授業を展開すれば、理解が進むだろうという仮説のもとで授業が成立していた。ところが今は、高校入試を経て、学力が比較的そろっている牧野高校においても、かなり多極化している。だからそれに対応できるよう国の言う個別最適化の学びを意識した取り組みが求められてくる。今日お話を伺って、思ったことは、ポイントの変化を必ず検定され、有意差があるのなら、そこを重点的に施策するということが求められてくるといったことである。ぜひ検定をされたい。学校教育自己診断の数値が上限まで達したのであれば、今後、それをどう維持し、どこを重点的に注力するかということがポイントになってくると思う。

○先ほどの正規分布にならないという話だが、学力試験を受けて一定の学力がある生徒が入ってくる牧野高校のような学校でも多極化というか学力が分散するものなのか。

府立牧野高等学校

○一定の学力がある集団でも正規分布しないというのが、現状。国の調査では 35 人学級で 8 %の生徒が学習に課題があるとされている。全国レベルで発達障がいも何%といった数字が出ている。牧野高校においても程度の差はあれ、いろいろな課題をかかえた生徒や特性のある生徒が在籍していると捉えておくのが基本。入試をクリアしたので、生徒の質は似ているが、一つのクラスで見ると多極化している。

○学校教育自己診断では、毎年のことだが、生徒と保護者との間でギャップが非常に大きい。特に「学校が楽しい」といった項目の第 1 評価のところ。唯一、一致しているのが体育祭、文化祭についてのところで保護者、生徒とも 50%超が評価している。保護者に対する情報提供のあり方について、何か方策が取れないものかといつも思う。「授業がわかりやすい」という設問について、子どもたちの第 1 評価は 3 割、8 割近い子どもたちがわかりやすいとしているが、保護者はかなり厳しく、第 1 評価が低い。こうした点について、学校からの情報が十分伝わっていないのか、あるいは子どもの話から判断しておられるのか。保護者の立場からお聞きしたい。

○私は P T A 役員なので学校からの情報はある程度入るが、高校生ともなれば学校のことは保護者にはほとんど話さない、聞いても答えないということがある。保護者は学校のことはわからない。知る機会がないので、こういう結果になると思う。そのために学校に何をしてほしいかといわれてもわからないが、情報発信をもう少し学校からあればと思うところはある。今年からメールマガジンでお知らせをいただいております、こうしたことを増やしていただければと思う。

○生徒、保護者、教員の意識がぴったり一致する必要はないが、第 1 評価のギャップがあまりに大きいので、ブログや S N S など学校が情報発信されるとそのギャップも少し埋まってくるのかもしれない。

○超過勤務のことだが、部活動の顧問が増える傾向にあるとのことだが、顧問の負担感はどうなものか。非常に負担を感じてされているのか、やりたくてされているのか。どちらが多いのか。

⇒本校は後者が多い。部活動指導を生きがいとしている方が、時間外勤務が多くなる。しかし本人は全然苦にしていない。月 80 時間、100 時間以上の先生方もこうした方。産業医面談も行うが、しんどいという訴えはなく面談もすぐに終わる。そうした方は部活動指導ができない方がストレスを感じる。数字だけ見ると、時間外が増えてしまうのだが、本人は苦にしていない。だからと言ってそれでいいというわけではないが。

○教育委員会から時間外を減らすように言われるので、時間外削減に向けた取組みをされていると思うが、そんな単純な問題でないようにも思う。今の話を聞くと、部活動指導が教員のワークライフバランスにあまり影響していないように思う。

⇒どのクラブも 1 週間の間に休養日を設けているので、部活動に熱心な先生もその日は早く帰っている。ただ、練習のある日や土日でも試合が結構あるので、そこで時間外が増えてしまう。

○「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の「全く思わない」がこれまでの 4 %、3 %から今年度は 9 %、特に 3 年生は 11%と上昇している。教職員も 2 %から 11%、11%と上昇している。ただ、保護者は非常に低い。ということは高校生になると、家で悩みとかを保護者に言っていないということになる。1 割の生徒がいじめ対応について少し不安に思っているのが気になる。カウンセリングや教育相談体制はどうなっているのか。

⇒スクールカウンセラーは、いろんな学校を巡回されており、本校には月 1 回来られる。その時は、生徒だけでなく保護者の予約も結構入る。もう少し巡回回数を増やしてほしいが、本校より重篤な生徒がいる学校が多いので、そうした学校への巡回が増えてしまう面がある。

○いじめを発見するための情報収集としてアンケートなどを行っているのか。

⇒年 3 回、いじめに関するアンケートをしている。誰がどのような回答したかわかるので、それを集約して聞き取りをした方がいいと判断した場合は、生徒を呼んで、聞き取りをする。ただ、なかなか話さない生徒もいるので、指導が進まないことがあるが、その場合も生徒の思いを最優先にし、無理に聞くことはせず、先生方には生徒の様子をよく見ておいてほしいとお願いしている。聞き取りが必要な生徒は多くなく、各学年に 1 人か 2 人程度である。

○「授業アンケート」の結果が素晴らしいが、高校になると教科の専門性が高まるので教科ごとの研修が中心になると思うが、学校全体で教科の枠を超えた例えば個別最適な学びとか協働的な学びとか、そのような視点で、授業を進めるために何か柱となるようなものを作られているのか。

⇒組織だったものは現在できていない。令和元年度と 2 年度に大阪府教育センターのパッケージ研修という授業力向上に係る研修に申し込み、2 年にわたって全教員が受講した。その研修の効果が残っているものと思う。

○学校からの情報提供ということでは、校長先生から S N S で発信をすごくしていただいているが、保護者が積極的に見に行かないということがある。小中学校までは保護者も意識があるが、高校になると保護者も意識が下がっているところはある。発信していただくと保護者は見に行くので、発信を増やしていただければと思う。それと高校になると保護者に学校からのプリントが渡らないことが小中学校の時よりずっと増える。先ほどのスクールカウンセラーの話でいうと、スクールカウンセラーが来るということが保護者に届いていない。そういったことがアンケート結果につながっているように思う。

○難しいことだが、ぜひ情報が的確に保護者に伝わるようお願いしたい。スマホを使うのも一つの方法だが、スマホ依存とか発達障がいに関わるようなところまで最近の研究されているので、うまくバランスをとる必要がある。紙ベースもいいかもしれない。

○学校教育自己診断の「予習復習をしている」の第 1 評価が低いのが残念。小 6 と中 3 を対象とした全国調査では自分で学び方を工夫する、すなわち自己管理自己統制型の学習ができる子どもは成績が優に高いという結果が今回明確に出ている。自分で予習復習を工夫しながら自己管理ができる能力いわゆる P D C A が小学校低学年から徐々に育成していくことが求められている。子どもたち自身が、そうした能力を身につけ、それを

府立牧野高等学校

	発揮するようにすることが、国が求めている個別最適化の学びと考えると牧野高校の生徒たちの予習復習も一律のやり方ではなく、一人ひとりが自分で考え工夫するようになると「授業がわかりやすい」という項目にもプラスに作用するのではないかと思う。数字だけ見れば、予習復習の当たり前のところができていないということになるので、何か取組方法を考えていただければということを感じた。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 5 年度値〕	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	（１）「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業改善検討委員会』等による持続的な授業改善の推進 イ ＩＣＴを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着	（１）新学習指導要領の完全実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とのための授業改善を進める。 ア 『授業改善検討委員会』等で持続的な授業改善を推進する。また先生方による授業観察期間を設け、授業改善に資するようにする。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ＩＣＴ機器やネットワーク環境を一層充実させ、ＩＣＴと１人１台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけと幅広く多くの教科を学習することの大切さを様々な機会を通して指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと観点別学習評価を全学年で安定して実施できるようにする。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 85％以上にする【85％】。 ・生徒の授業アンケート結果で 3. 40 以上を維持する【①3. 45、②3. 51】。 イ・ＩＣＴと１人１台端末を活用する授業を行う教員を 85 ％ 以上 に する【81％】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』を 55％以上【51％】、『できていない』を 8 ％以下にする【 9 ％】。 エ・観点別学習評価を全学年で完全実施する。	（１）ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答は 78％であった。直近 5 年では 78％⇒84％⇒82％⇒85％⇒78％と前年度を下回ったが「よくあてはまる」は 19％⇒24％⇒25％⇒31％⇒30％と前年度並みであった。（△） ・生徒の授業アンケート結果は、１回めが 3. 41、２回めが 3. 46（非常勤講師含）であった。（○） イ・「ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業を行っている」の教員の肯定的回答は 78％であった。（△） ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』は 49％であった。（△）『できていない』は 9 ％であった。（△） エ・観点別学習評価は全学年で完全実施した。（○）
2. 想と対 G I G A 活用授業の推進	（１）感染症罹患者等の学習補完と G I G A スクール推進 ア 感染症罹患者等の学習補完 イ G I G A スクール構想推進	（１）ＩＣＴ機器の活用で学校休業時や感染症罹患者等の学習補完を図るとともに、G I G A スクール構想への対応を推進する。 ア ＩＣＴ機能を活用して学校休業時や感染症罹患者等の学習補完を充実する。 イ １人１台端末の活用をすすめ、授業や学校行事等、教育活動全般において ＩＣＴ活用推進を図る。	（１）ア・ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多いと実感する生徒が 90％以上にする。【89％】 イ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答を 70％以上にする。【73％】	（１）ア・ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多い」の生徒の肯定的回答は 82％であった。（△） ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答は 67％であった。（△）
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	（１）多様性、共生の意識醸成 ア 様々な偏見を許さないとともに、生徒、教職員の人権意識醸成の機会を作っていく。 （２）生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを維持するとともにポストコロナを踏まえた行事等の見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実。	（１）様々な偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア 様々な偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間 2 回以上、教職員も年間 2 回以上行うようにする。 （２）生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持するとともに、学校行事、生徒会行事については、ポストコロナの社会で実施可能なものを検討していく。 イ 大学進学等のその先 20 年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。	（１）ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を 90 ％ 以上 に する【89％】。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答 83％以上にする【80％】。 ・人権教育を生徒は各学年で年 2 回、教職員も年 2 回行う【１年 3 回、2 年 2 回、3 年 3 回、教職員 2 回】。 （２）ア・体育祭、文化祭はポストコロナにあった実施のあり方を検討する。 ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答を 65％以上とする【65％】。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を 75％以上にする【74％】。 イ・進路に関する講演会等を各学年で年 2 回以上実施する【１年 3 回、2 年 7 回、3 年 3 回】。 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 80％以上にする【80％】 ・「将来の進路や生き方につ	（１）ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は 82％であった。（△） ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は 74％であった。（△） ・１年生は同和問題、アニメ「めぐみ」鑑賞の 2 回、２年生は同和問題、在日外国人と多文化共生に関する講演の 2 回、３年生は職場での差別とハラスメント、人間らしく生きるために必要なお金の 2 回、教職員は児童養護施設職員による講演と同和問題を中心に人権教育の重要性に関する講演の 2 回行った。（○） （２） ア・体育祭、文化祭は入場制限を設けず実施。前者は 900 人弱、後者は 900 人超の来場者があった。来年度の体育祭は、教員・生徒双方の負担を軽減するため、団を 4 団から 3 団とし、競技種目の実施方法も一部見直すことを決定した。「体育祭の内容は満足できるものであった」「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答はそれぞれ 83％、81％（１年生 83％、80％ ２年生 85％、81％ ３年生 82％、82％）であった。（○） ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答は 66％であった。（○） ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は 69％であった。（△） イ・外部講師による進路講演会は 1 年生は 5 回、２年生は 3 回、３年生は 3 回実施した。（◎） ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答は 70％であった。（△） ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」

府立牧野高等学校

	ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望を進路実現させるための進路指導体制の充実	ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。 エ 入学から卒業までの全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、進路指導部を中心に生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	いて考える機会がある」の生徒の肯定的回答を 90％以上にする【88％】 ウ「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。 エ・定期的に全国比較での模試を行い学習の定着度や到達度を計測して向上させる。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込者の 70％以上【68％】、内5教科型（情報含まず）の出願者を30％以上【31％】にする。 ・国公立大学の現役受験者を卒業見込者の 20％以上【26％】、内現役合格者を卒業見込者の 5％以上【12％】とする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業見込者の 15％以上【15％】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業見込者の 60％以上【66％】にする。	の生徒の肯定的回答は82％であった。（△） ウ・「総合的な探究の時間」は、各学年でテーマを決め、そのテーマに沿って調査研究・発表を行った。1年生は年度後半から枚方市と連携した探究活動「ひらかた万博」に参画し、来年度前半まで継続予定。（○） エ・全国比較できる外部模試を校内で実施、結果分析説明会も生徒、教員双方に対して行い、生徒の学習到達度を図れるようにした。（○） ・大学入学共通テストの出願者は卒業見込者の 59％で、（△）このうち5教科型（情報含まず）の出願者は19％であった。（△） ・国公立大学の現役受験者は卒業見込者の 17％、現役合格者は4％となった。（△） ・国公立大学と同志社大学の現役進学者は卒業者の 10％であった。（△） ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者は卒業者の 57％であった。（△）
4. 教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減	（1）教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修の充実 （2）「働き方改革」の推進による教職員長時間勤務の縮減 ア「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。	（1）教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア 教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。 （2）「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議にも応用し、会議時間縮減や、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実効性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。	（1）教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答83％以上をめざす【80％】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答82％以上をめざす【80％】。 （2）教職員の長時間勤務縮減 ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より3％削減をめざす【R5：40時間12分】	（1）ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答は76％であった。（△） ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答は74％であった。（△）生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内3回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応で「いじめに困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、5年間で84％⇒87％⇒87％⇒85％⇒80％といずれも8割以上である。 （2）ア・運営委員会、職員会議等諸会議のペーパーレス化による会議時間短縮や電子黒板利用による教材の共有化、効率化が進んだ。今年度はコロナ前の教育活動に戻ったことにより、教職員への声掛け、部活動指導員の活用等に取り組んだが、教職員一人あたりの超過勤務時間は前年度比0.9％増加した。（△）